

## 救急整形外傷レジデントマニュアル 第2版

田島康介 ● 著

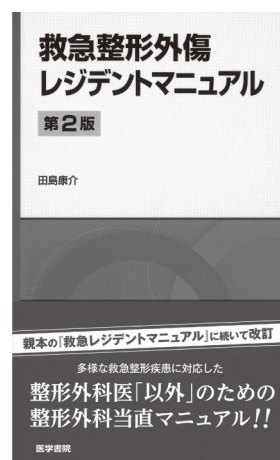
〔評者〕 峰原宏昌 (北里大病院講師・救命救急・災害医療センター)

田島康介先生に初めてお会いしてから約7年が過ぎました。その当時、田島先生はちょうど、大学で整形外科から救急科に出向されており、ひたむきに整形外科に取り組んでおられました。その様子を知っている者からすると、今回出版された『救急整形外傷レジデントマニュアル 第2版』は、ほとんどの内容が、先生御自身が日々の診療の中で経験されたことを中心に書かれたものであると推察できます。

理路整然とした研究発表をされておられた田島先生のことを思い、期待をしつつページをめくると、創傷処置に始まり、シーネの当て方、関節穿刺、爪下血腫の除去の仕方まで、さらには軟部組織損傷、脱臼、骨折、非外傷性疾患、小児関連、高齢者関連へと続いています。時折、筆者の推奨する方法などを詳しく説明しながら、POINT、MEMOなどのわかりやすい解説もあり、心を惹きつけられました。読み終えた後で、

「整形外科を専門としない救急医でも読みやすい内容となっている。いや、これは一人当直をする整形外科レジデントにもぜひ読んでもらいたいマニュアルだ」と直感しました。

「第2版の序」の田島先生のメッセージにもあるように、救急医と整形外科医はお互いの治療の常識が若干異なる部分があるようです。救急整形外傷患者の初療にかかわる医師やその状況(勤務体制・人数)は、施設によって異なっています。整形外科医が初療に参加できない状況や施設もあるでしょうし、整形外科医でさえ見落としてしまう外傷もあるかも知れません。しかし、どのような状況下でも外傷患者を治療するチームとしてぜひとも他科の考えを理解して横断的な知識を身につけていただきたいと思います。言うまでもなく、整形外科における初療は非常に重要であり、重度外傷に限らず、2次救急レベルの外傷でさえ、時に初療の選択がその患者



の人生を決定づけてしまうことがあるからです。その初療の選択の際に、このマニュアルが非常に力を発揮するのではないのでしょうか。

B6 変型・頁 192

2018 年 11 月

定価：本体 3,500 円＋税

[ISBN978-4-260-03688-7]

医学書院 刊